

いちご島根県オリジナル品種‘いずもびじん’の育成

特産開発グループ 持田耕平

農業技術センターは、いちごでは本県初のオリジナル品種‘いずもびじん’を育成しました。

○育成経過

この品種は2006年3月に‘紅ほっぺ’と‘アスカルビー’を交配して得られた実生の中から数回の選抜を経て、特性調査で優良性が認められ、2011年2月に品種登録出願(品種名‘島系22-111’)し、翌2012年には‘いずもびじん’の名称を商標登録しました(写真-1)。

○‘いずもびじん’の主な特性

最大の特徴は、果実が大きく、商品果(10g以上で奇形等のない果実)収量も多いことです。H21～23年度の調査では収量が‘紅ほっぺ’より多くなりました(表-1)。その他には、①果皮は「濃赤」で、果実は光沢が強い。②花果形は円錐形③草勢が強く厳寒期でも草勢が衰えにくい。④ランナーの発生がやや少ない⑤花房あたりの花

数が少なく、摘果(花)作業が省略できる。

⑥うどんこ病や炭疽病への抵抗性は‘紅ほっぺ’と同程度。⑦糖度は‘紅ほっぺ’よりやや低い、といった特性があります。

○摘果処理と商品性の向上

摘果処理(1果房の着果数を5果に調整)による総収量や平均1果重への影響を調査しました。総収量は慣行区の925gに比べて処理区は780gと少し減少しましたが、商品果率の上昇(慣行区:76%、処理区:81%)や、各調査月における平均1果重の増加が見られ(図-1)、調査期間全体でも慣行区:33.1g、処理区:37.4gと1果重が増加しており、‘いずもびじん’の特徴がさらに明確になりました。

○おわりに

今後も育成した新品種の特徴を活かせる栽培方法等について検討する予定です。

表-1 ‘いずもびじん’と‘紅ほっぺ’の比較

品 種 名	商品果収量 (g/株)	平均1果重 (g)	開花始 月. 日	収穫始 月. 日	頂果房の 花数(個)	糖度 (Brix%)
いずもびじん	677.6	28.7	11.9	12.17	8.3	12.2
紅ほっぺ	423.7	20.2	11.6	12.14	13.2	13.4

※数値は、H21～23年の平均(花房あたり花数、糖度はH22年度実施)

※糖度は、頂果房の2,3番果を調査

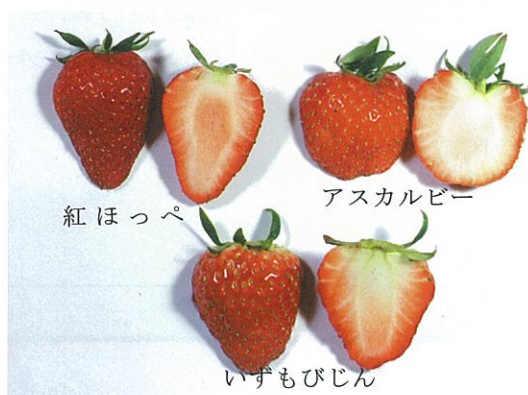


写真-1 ‘いずもびじん’と交配親

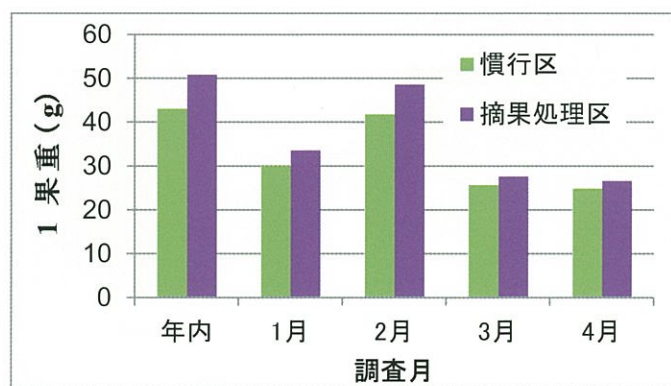


図-1 商品果の月別平均果重